

日々歩

hibiho
ひびほ



がんをこえて、ともに歩む

季刊 No.24 / 2019 Summer



がんを学ぼう [教えて!ドクター]

最適な治療を提供し、多様なニーズにも対応
(東病院 乳腺・腫瘍内科)

がんプロフェッショナルたち
歯科衛生士・歯科技工士たち

あなたを支えるチーム医療の輪
「治療と妊孕性^{にんようせい}」について、一緒に考えサポートを

「がんと生きる」を支えます!
飲み薬の抗がん剤の悩みに答える「薬剤師外来」

MICAD

東病院の家族性腫瘍外来で 院外からの受け入れを開始



がんの5～10%は、生まれつきの遺伝子変異が原因の遺伝性腫瘍と考えられており、患者さんに遺伝子変異が見つかった場合、血縁のご家族も同じ変異を持つ可能性があります。東病院の家族性腫瘍外来では、臨床遺伝専門医と遺伝カウンセラーが、遺伝性のがんのリスク評価や情報提供を行っています。遺伝

的にがんになりやすいと診断された場合、早期発見・早期治療に努めたり、予防的な手術を行うことで、がんの発症リスクを下げることができます。がんの遺伝が心配な方は受診をご検討ください。6月より他の医療機関の紹介状をお持ちの方も受診いただけるようになりました。

- ◇外来診察日：毎週水曜日、第2・第4木曜日の午後
- ◇受診方法（完全予約制）
 - ・東病院受診中の方…主治医にご相談ください。
 - ・他の医療機関から紹介の方…紹介状をご用意のうえ、下記へお電話ください。
 - ・血縁者診断をご希望の方（ご家族が遺伝性腫瘍と診断された方）…下記へお電話ください。

◎予約センター ☎04-7134-6991（平日 8:30～17:15）
※必ず「家族性腫瘍外来を受診したい」ことを伝えてください。



NHK総合「病院ラジオ」が 8月に放送されます！

中央病院で収録したNHKのドキュメンタリー番組「病院ラジオ」が、8月7日（水）22:00～22:50にNHK総合テレビで放送予定です。お笑いコンビ・サンドウィッチマンのお二人がDJをつとめるラジオ局が2日間限定で中央病院に開設。ゲストの患者さんやご家族が語るエピソード、闘病の模様などがリクエスト曲にのせて紹介されます。それぞれの思いを胸にがん向き合う様子は、どなたの心にも響きます。どうぞご覧ください。

東病院 頭頸部外科 新科長就任のお知らせ

2019年4月、東病院頭頸部外科に松浦一登科長が就任しました。就任のご挨拶を紹介します。「東北大学出身の松浦です。東病院の創成期にレジデントとして研修し、その後スタッフとしても在職しました。この度、宮城県立がんセンター副院長を辞し、15年ぶりに古巣に戻ってまいりました。皆様方に、より良い頭頸部がん治療を提供できるよう頑張ります」



東病院 頭頸部外科長
松浦一登

親子をつなぐノートが誕生 「だいすきなあなたへ」

お子さんがいるがん患者さんの声から生まれた「だいすきなあなたへ」は、病気になっても変わらない、「だいすき」という思いを、親子で伝えあうためのノートです。メッセージを書き込んだりシールを貼ったりすることで、世界に一つだけのノートが完成します。ご家族への感謝やお子さんの未来への思いを込めて、一緒に手作りしてみませんか。



編：小嶋リベカ（中央病院緩和医療科ホスピタルプレイスタッフ/公認心理師）
絵：はしもとゆうこ 協力：里見絵理子/あべやすし/高田博美/桂里工
（PHP 研究所 定価：本体 600 円+税）

《目次》

- News & Topics 2
- がんプロフェSSIONALたち 3
 - 中央病院 歯科
 - 歯科衛生士・歯科技工士たち
- がんを学ぼう【教えて!ドクター】 4
 - 最適な治療を提供し、多様なニーズにも対応
 - 東病院 乳腺・腫瘍内科
- あなたを支えるチーム医療の輪 6
 - vol.5 「治療と妊孕性」について、一緒に考えサポートを
- 「がんと生きる」を支えます! 7
 - vol.6 飲み薬の抗がん剤の悩みに答える「薬剤師外来」
- NCC INFORMATION 8
 - こちら薬剤部 薬を上手に使って自分らしい生活を

口腔ケアで治療中の合併症・副作用を予防 機能回復のための入れ歯や補助装置作製も

がん治療での歯科や口腔ケアの重要性が高まっているをご存知でしょうか。中央病院の歯科では、歯科医とともに歯科衛生士4人、歯科技工士1人が働いています。歯科衛生士と歯科技工士の皆さんに、その役割について聞きました。

—がん治療における歯科衛生士の役割とは、どのようなものですか？

小野 手術後や抗がん剤治療中には、口の中の細菌が原因で合併症が起こることがあり、それを予防するための口腔ケアを行っています。治療を始める前の患者さんの口の中をチェックし、歯石や歯垢を除去します。口を清潔に保つための歯磨き指導も行います。

浅野 全身麻酔で手術を受ける患者さんは、人工呼吸器のチューブを通して口の中の細菌が肺に入ると、術後肺炎の原因になります。頭頸部がんの手術の場合、口の細菌が傷の感染を起こすこともあります。手術合併症を防ぐためには、あらかじめ口の中の細菌を減らしておくことがとても大切なのです。

—抗がん剤治療の前にも口腔ケアが重要なのはなぜですか？

寺出 抗がん剤の代表的な副作用である口内炎の重症化や、免疫力が下がったときの口由来の感染症を予防するためです。抗がん剤治療や造血幹細胞移植を受けた患者さんの中には、口の副作用が重症化して、食事や会話も難しい状態になる方もいます。治療前から口を清潔にすることで副作用が重症化するリスクを減らし、治療中も必要に応じて専門的な

ケアを行って、つらい状態を少しでも解消できるようにお手伝いしています。

小野 口内炎の薬や低刺激の歯磨き粉、軟らかい歯ブラシなど、症状を乗り切るためのケア用品を、患者さんの状態に合わせてご紹介するのも私たち歯科衛生士の役割です。

—歯科技工士の役割は？

小室 手術中や放射線治療中に装着するマウスピース、頭頸部がん^{*}の患者さん用の特殊な入れ歯や口の機能を補助する装置などの作製が主な仕事です。

歯周病などで歯がぐらぐらした状態になっていると、手術の際、人工呼吸器のチューブの挿入によって歯が抜けてしまうことがあります。マウスピースを装着することで、そういったトラブルを防ぎます。

放射線療法を受ける頭頸部がんの患者さんは、治療計画通りに安全に放射線が照射されるように、スぺーサーと呼ばれる固定具を口に装着します。マウスピースやスぺーサーは患者さんの歯型に合わせて、一つ一つ手作りしています。

—特殊な入れ歯も手作りですか？

小室 そうです。頭頸部がんの患者さんが手術で切除された歯や歯肉、あごの欠損部分を補うための特殊な入れ歯^{かくぎし}（顎義歯）、食事の飲み込みを助ける嚥下^{えんげ}補助装置なども、工夫を重ねつつ手作りしています。こういった入れ歯や補助装置



前列左から歯科技工士の小室美穂さん、歯科衛生士の小野実成美さん、後列左から歯科衛生士の大久保美沙さん、寺出裕子さん、浅野千絵さん

をつけることで食事や会話ができるようになった、外見の悩みが軽減されたという声を聞くと嬉しいです。

他の病院で頭頸部がんの手術を受けた方の特殊な入れ歯や補助装置も対応できますので、ぜひ当院の歯科を受診してご相談ください。

—患者さんに伝えたいことは？

大久保 がん治療を最後まで安全に、予定通り続けられるように、患者さんの口腔内のトラブルを解消するお手伝いができたらと考えています。口内炎や口の中の乾燥など、がん治療中に気になる症状があったら、我慢せず、主治医を通して歯科を受診してください。

^{*}頭頸部がん＝口、喉、鼻、耳下腺などのがん



頭頸部がんの放射線治療中に装着するスぺーサー。患者さんの歯型に合わせて手作りしている

最適な治療を提供し、多様なニーズにも対応

乳がんは、女性のがんの中で最も患者数が多く、30代～50代の働き盛り・子育て世代が発症しやすい病気です。東病院では、科学的根拠に基づいた最新の治療を提供しつつ、昨年開設した「レディースセンター」において、患者さん一人ひとりのニーズに合わせたきめ細かいサポートをしています。乳腺・腫瘍内科長の向原徹医師に、乳がんの薬物療法と、多様なニーズを持つ患者さんを支えるレディースセンターのサポート体制について聞きました。

「サブタイプ」「再発リスク」「本人の希望」により薬物療法を選択

乳がんは比較的早期の段階から微細な転移が起こり、全身病へと移行すると考えられています。そのため、たとえ乳房の腫瘍が小さくても、ほとんどの患者さんに「手術」「薬物療法」「放射線療法」を組み合わせた「集学的治療」を行い、治療率を上げる努力をしています。

ひとくりに「乳がん」と言っても、実は、がん細胞の性質や悪性度によって、さまざまな種類があります。少し専門的になりますが、乳がんの性質による分け方を「サブタイプ分類」と呼びます。

サブタイプ分類とは、薬物療法をする前に、患者さんががんの性質を詳しく調べ、「ホルモン受容体が陽性かどうか」「『HER2』と呼ばれるタンパク質ががん細胞の表面に過剰に発現しているか」「がん細胞の増殖能力を示す指標『Ki67』

の値は高いか」によって、乳がんを5種類に分ける方法です(下表参照)。サブタイプによって、病気の勢いや薬に対する反応性が異なります。その他、「再発リスク」や「患者さん本人の希望」も考慮し、一人ひとりに合わせて適切な治療法を選択します。

「ホルモン療法」「抗HER2療法」「化学療法」で再発を予防

薬物療法の目的は、主に、①手術前にがんを小さくする(術前薬物療法)、②手術後に再発リスクを減らす(術後補助薬物療法)、③治療が難しい進行がんや再発がんの治療のため——の3つです。術前または術後に用いられる薬物療法には「ホルモン療法」「抗HER2療法」「従来からある一般的な抗がん剤による化学療法」の3種類があります。ホルモン療法は、女性ホルモンの働きを抑える薬を用いる治療法で、閉経前と閉経後では



東病院 乳腺・腫瘍内科長
向原 徹 医師

むこうはら・とおる / 1997年大阪市立大学医学部卒業。東病院化学療法科勤務、神戸大学腫瘍センター特命准教授、同大学院通院治療室長などを経て、2017年より現職。日本臨床腫瘍学会がん薬物療法専門医・指導医。「患者さんもチーム医療の一員として参加し、納得のいく治療を受けてください」

使う薬の種類が異なります。また、抗HER2療法では、がんの増殖の原因となっているHER2というタンパク質の働きを阻止する薬を使います。

●ルミナルタイプの薬物療法

乳がんの約6割は、女性ホルモンががんの増殖に関与している「ルミナルタイプ」(ルミナルA型・B型)です。このタイプの患者さんには、ホルモン療法を5～10年間行います。ホルモン療法は、化学療法に比べて副作用が少ないと言われますが、顔が赤くなったりほてったりするホットフラッシュや、発汗、動悸など更年期障害のような症状が出る人もいます。その場合は症状を抑える薬を使ったり、薬を変更したりすることもあります。

■乳がんのサブタイプ分類と薬物療法の内容

サブタイプ分類	ホルモン受容体		HER2	Ki67値	主な薬物療法の内容
	ER	PgR			
ルミナルA型	陽性	陽性	陰性	低	ホルモン(内分泌)療法
ルミナルB型 (HER2陰性)	陽性	弱陽性 または陰性	陰性	高	ホルモン療法 +化学療法
ルミナルB型 (HER2陽性)	陽性	陽性 または陰性	陽性	低～高	ホルモン療法 +抗HER2療法 +化学療法
HER2型	陰性	陰性	陽性		抗HER2療法 +化学療法
トリプルネガティブ	陰性	陰性	陰性		化学療法

ER=エストロゲン受容体、PgR=プロゲステロン受容体、Ki67値=活性期にある乳がん細胞の割合
「乳がんの受診から診断、治療、経過観察の流れ」(国立がん研究センターがん情報サービス)を参考に作成

●HER2タイプの薬物療法

HER2陽性乳がんである「HER2型」と「ルミナルB型（HER2陽性）」は、もともと悪性度が高く、増殖の速いがんとして知られていました。しかし近年、抗HER2療法と化学療法を組み合わせることにより、治療成績が大きく改善しています。HER2陽性乳がんには、基本的には、抗HER2薬の「トラスツズマブ」を用いますが、リンパ節転移があるなどリスクが高い場合には、「ペルツズマブ」という薬を加えてより強力な治療を行います。

●遺伝子検査を提案するケース

ルミナルタイプの患者さんに化学療法を行うかどうかは、再発リスクと抗がん剤治療のメリット・デメリットを天秤にかけ、患者さんの価値観も考慮して検討します。特に、ルミナルタイプでリンパ節転移がない場合には、再発の可能性と化学療法の効果をより詳しく調べる遺伝子検査「オンコタイプDX」を提案することがあります。ただし、オンコタイプDXは公的保険対象外の検査で、約42万円の費用がかかります。

ホルモン受容体もHER2もすべて陰性の「トリプルネガティブ」の患者さんは、化学療法で再発を予防します。

今のところ、化学療法は術前あるいは術後のどちらに行っても、再発率や生存率への効果は変わらないとされています。術前化学療法のメリットは、「腫瘍が縮

小したら乳房温存療法が行える可能性があること」と、「薬物療法の効果判定ができること」です。効果によっては、術後に用いる薬を変える試みもなされています。

選択肢が増えている 転移・再発乳がんの薬物療法

転移・再発乳がんの治療においても、基本的には、サブタイプによって薬を選択します。「CDK4/6阻害薬」「PARP阻害薬」など新しいタイプの薬^{*}も使えますし、抗HER2薬の選択肢も豊富です。

PARP阻害薬は、「BRCA1/2」という遺伝子に変異がある「遺伝性乳がん・卵巣がん症候群（HBOC）」の患者さんで、転移・再発した場合の治療に有効な薬です。「BRCA1/2」の変異の有無を調べる遺伝子検査は、基本的には公的保険の対象外ですが、HER2陰性がんが転移・再発した場合は、保険診療で受けられます。

遺伝性の乳がんは、乳がん全体の約5～10%を占めています。遺伝性とわかった場合には、ハリウッド女優のアンジェリーナ・ジョリーさんのように、発症前に卵巣や乳房を切除する手術を受ける方法もあります。家族にがん患者が多くいるなど遺伝が心配な方は、担当医や、これからご紹介するレディースセンターの女性看護外来へご相談ください。

治療に伴うさまざまな悩みは レディースセンターでサポート

東病院では昨年、レディースセンターを開設し、女性看護外来を窓口として、さまざまな相談に対応しています。遺伝のこと以外にも、妊孕性（妊娠する力）の相談・対応、脱毛など治療に伴うアピアランス（外見の変化）相談・支援、リンパ浮腫を含むリハビリテーションの必要性評価と対応、治療と仕事や育児との両立、薬の副作用への対処法など、内容は多岐に渡ります。

「子どもに病気のことをどう伝えたらいいのか」といった悩みについても、女性看護外来の看護師と小児腫瘍科の医師等が連携してサポートします。経済的な問題や就労に関することなども、一人で悩まず女性看護外来を活用してください（サポートケアセンター／がん相談支援センターの専門スタッフへとつなげます）。

薬物療法については、自分に合った方法を選択し、納得して治療に臨んでいただきたいと思います。私たち乳腺・腫瘍内科の医師は、科学的に有効かつ安全とされている治療法の中から最適なものを提案しますが、不安に思ったり判断に迷ったりしたときは、遠慮なく担当医や看護師などに伝えてください。

患者さんもチーム医療の重要なメンバーです。一人ひとりが生活の質を保ちながら治療を受けられるように、チーム全体でサポートします。ホルモン療法や転移・再発した場合の治療など、乳がんの治療は長期間に渡ることがあります。闘病に伴う悩みや不安は、担当医や外来の看護師、レディースセンターの相談窓口などに気軽に相談し、その都度解消するようにしてください。治療中でも「あなたらしさ」を大切に生活を送っていただきたいです。

^{*}いずれも、分子標的薬と呼ばれます

■東病院 レディースセンター^{*}の役割



レディースセンターは、女性がん患者さんが「その人らしい生活」を送れるよう、最適な医療とサポートを提供するために開設されました。病院棟2階の「女性看護外来」が総合窓口となり、さまざまな相談に多職種で対応しています。 ^{*}6ページに関連記事



あなたを支えるチーム医療の輪 vol.5

「治療と妊孕性^{にんようせい}」について、一緒に考えサポートを

がんの手術、薬物療法、放射線などの治療によって、男女とも、生殖機能が低下したり、将来、子どもを持つことをあきらめざるを得なくなったりすることがあります。そのため、東病院では、レディースセンターの「女性看護外来」で、妊孕性(妊娠する力)に関する相談に応じています。がん治療が妊孕性に及ぼす影響と、その対応について、女性看護外来を担当するがん看護専門看護師の千葉育子さんが解説します。

治療前に妊孕性への影響確認を

がんの治療成績が向上したこともあり、近年、AYA世代(思春期・若年成人、Adolescent and Young Adult)の患者さんを中心に、将来の妊娠・出産への影響について、治療開始前に情報提供を行うことの重要性が強調されるようになりました。東病院では、病院棟2階の「女性看護外来」で、妊孕性に関する相談を受けています。「自分の受ける治療が生殖機能にどう影響するのか心配」「妊娠・出産の可能性を残す妊孕性温存療法について知りたい」「将来、子どもを持つてなくなることもあるの?」など、妊孕性に関する不安や疑問は、未婚・既婚を問

わず、治療を始める前に確認しておくことが大切です。

女性看護外来の受診は、担当医や看護師などを通して予約を取るか、直接、窓口までお越しいただいてもけっこうです。相談は個室で行います。「今は、病気のことまで頭がいっぱい」「まだ学生で将来のことまでイメージできない」という方も、まずは相談にいらしてください。子どもを持つかどうかは、人生設計に関わるデリケートな問題です。妊孕性を残す意味について、私たちも一緒に考えます。

女性看護外来の相談窓口ですが、妊孕性に関しては、男性患者さんの相談も受け付けます。患者さんの配偶者やパートナーも含めて、カップルへの支援も行っていきたいと思っています。

がんの種類や患者さんの年齢、全身状態などによっては、将来の妊娠・出産をあきらめなければならない方もいらっしゃいます。温存の希望がかなわなかった方や、温存を選ばなかった方の心のケアも、妊孕性相談の大切な役割です。



「患者さんだけでなく、そのパートナーの方も含めてサポートしていきたいです」
(千葉育子看護師)

妊孕性温存の方法は、女性の場合「卵子凍結」「受精卵凍結」「卵巢組織凍結」の3種類があり、男性の場合は「精子凍結」を行います。受精卵凍結は夫やパートナーがいる女性、卵子凍結は未婚の女性、卵巢組織凍結は初潮が来ていない女兒を含む女性、精子凍結は精液生産のある思春期以降の男性が対象です。基本的に健康保険が使えず、費用が高額なのが難点です*。

治療を最優先する原則がある中で、「性生活や妊娠・出産のことなど相談してはいけないのではないか」などと思われる患者さんもいらっしゃるかもしれませんが、何でも気軽に相談してください。

*費用は受精卵凍結が約40~80万円、卵子凍結が約30~70万円、卵巢組織凍結が約55~100万円、精子凍結が約5万円(いずれも初期費用)で、その他に毎年の保存料が数万円かかる。滋賀県、岐阜県、京都府、埼玉県、千葉県館山市など公的補助を行っている自治体もある。

女性看護外来のある レディースセンター*とは



東病院レディースセンター長
秋元哲夫医師

東病院では、幅広い年齢層の女性がん患者さんを支援するレディースセンターを昨年、開設しました。「女性看護外来」を総合窓口として多職種が連携し、女性患者さんが、生活に大きな変化を強いられることなく、安心してがん治療が受けられる環境の提供を目指しています。このレディースセンターの柱の一つが「妊孕性相談・対応」です。男女を問わず、医師には話しにくい性生活の悩みや、妊孕性への影響などを看護師に相談し、納得して治療を受けていただければと思います。

東病院では、幅広い年齢層の女性がん患者さんを支援するレディースセンターを昨年、開設しました。「女性看護外来」を総合窓口として多職種が連携し、女性患者さんが、生活に大きな変化を強いられることなく、安心してがん治療が受けられる環境の提供を目指しています。このレディースセンターの柱の一つが「妊孕性相談・対応」です。男女を問わず、医師には話しにくい性生活の悩みや、妊孕性への影響などを看護師に相談し、納得して治療を受けていただければと思います。

*4~5ページに関連記事

がん・生殖医療を行う専門病院と連携

妊孕性温存治療を希望する方には、必要に応じて、がん患者さんに対するがん・生殖医療を行っている連携病院を紹介いたします。がん治療の開始が遅れることのないよう、婦人科医と協働し、すぐに連携病院の予約を取ります。手続きはとても迅速で、その日のうちに連携病院を受診する患者さんもいます。

「がんと生きる」を
支えます!

中央病院・患者サポートセンターへようこそ vol.6

飲み薬の抗がん剤の悩みに答える「薬剤師外来」

中央病院・患者サポートセンターでは、がん専門薬剤師による「薬剤師外来」を開設しています。どのような相談に乗っているのか、「薬剤師外来」を担当する薬剤部がん専門薬剤師の牧原玲子さんが解説します。

内服薬で治療する患者さんを支援 —薬剤師外来とは?

主に、飲み薬の抗がん剤を服用している患者さんを対象に、薬の服用の仕方、出やすい副作用を確認し、副作用のための薬の服用方法を説明する外来です。

—飲み薬の抗がん剤治療のみの患者さんを対象にしているのはなぜですか。

点滴薬の抗がん剤治療を受けている方に対しては、通院治療センターで、薬剤師が副作用の説明や相談をしています。近年、飲み薬の抗がん剤だけで治療をする患者さんが増えており、患者サポートセンター開設時に、薬剤師外来を設置することになりました。

飲み薬の抗がん剤は、点滴薬と比べて副作用が出にくいと思っている方もいるようですが、副作用が出ないわけではありません。副作用の種類、出方や感じ方は患者さんによっても異なります。副作用とうまくつきあって治療を乗り切るためにも、飲み薬の抗がん剤治療中の悩みに薬剤師が個別に対処する外来が必要だと考えています。

服用前から治療中もサポート

—相談はいつでもできますか?

はい。患者サポートセンターの利用時間内であればいつでも対応します。ただし、基本的には予約が必要で、担当医、看護師から依頼があった患者さんが優先されます。直接、患者サポートセンターの窓口へ来ていただいてもいいのですが、お待たせしてしまう場合もあります。

—薬剤師外来受診のタイミングは?

飲み薬の抗がん剤に関して気になることがあったらいつでも受診してください。

最も多いのは、抗がん剤の服用を始める日に、担当医の依頼で、薬の飲み方、出やすい副作用とその対処法を説明するケースです。次に外来診療に来た際に、まずは薬剤師外来でどのような副作用が出たかを確認し、患者さんに合った対処法などをお伝えしつつ、担当医にも情報を共有しています。その後も、必要に応じて外来診察の際に薬剤師外来を受診していただいています。

生活に合った対処法を伝授

—どのような相談が多いのですか。

吐き気や食欲不振、便秘、下痢、口内炎、皮膚障害、倦怠感、眠気が強いなど、副作用に関する相談が多いです。調子が悪いけれども、副作用なのか体調の変化なのかわからないという患者さんも少なくありません。不安感から吐き気などの症状が出ている患者さんもいますし、他の患者さんも同じような症状が出ていると知って安心される方も大勢いらっしゃいます。

脱毛など外見に関係する悩みはピアランス外来を紹介します。治療のための体調管理や副作用を改善するための



がん専門薬剤師の牧原玲子さん

支持療法薬の服用方法が難しい場合には、ソーシャルワーカーにつないで訪問看護などの利用を検討してもらうこともあります。

—相談の際に心がけていることは?

患者さんご自身が納得して治療に取り組めるよう、個々の症状、性格などに合わせて、生活がしやすくなるようなアドバイスを心がけています。例えば、かゆみ、湿疹、手足症候群などの皮膚障害でも、患者さんの生活スタイルによって、外用薬を塗る頻度や方法も違ってきます。薬ではなく副作用を軽減するために役立つグッズを紹介することもあります。薬に関して困ったことがあったら、我慢せずご相談ください。

「患者サポートセンター」をご活用ください

中央病院8階にあり、さまざまな職種の専門家が患者さんご家族の相談に応じる他、各種の患者教室も開催しています。

■利用時間 月～金曜 9時～16時

■一部のプログラムは要予約



NCC INFORMATION

寄付者ご芳名 (敬称略/掲載ご希望者のみ)

- がん研究・がん医療のための寄付(使途を指定しない寄付)
 - 高橋丈夫 株式会社カラーエンタープライズ 端崎諄
 - 清水淳一 合同会社DropStone 鈴木昇 清水友美
 - 有限会社ガッツ 代表取締役社長 山本博 吉澤道子 石崎守彦
 - 鈴木弘崇 宮本里美 有限会社昆野組 代表取締役社長 昆野長晨
 - 齊藤征之 戸田一豪 加藤美智子 堀田淳 茂野光行
 - 株式会社飛竜企画 玉城篤 林洋次 川村敏範 藤井節子
 - 宮本岳司朗 小澤正男 由良麻里 山口秀和 柴田孝次
 - 斉藤光子 工藤芳子 久安株式会社 武田英敏 笹生真悟
 - 伊藤尚喜 名賀敏之 毛利留一 松本淳一 坂本親子 三木将夫
- プロジェクト寄付(使途指定寄付)
 - NEXT 山田敦義 久住武・真理 本山誠一郎 崎村浩一 浦田毅之
 - 患者サポートセンター 山西歩純 小林良昭

ご寄付をいただきありがとうございます

当センターへのご支援、厚く御礼申し上げます。今後ともますますのご支援を賜りますようお願い申し上げます。お預かりした寄付金は、プロジェクト寄付、または、がん研究・がん医療の発展のため、大切に使用させていただきます。

- SCRUM-Japan
 - 株式会社グッドイマーゼンス 山岡賢一・早苗
- Endeavor 福川大和
- 届けるを贈る 届けるを支える『がん情報ギフト』
 - 吉岡真紀子 勝俣清三 有限会社BIGWAVE
 - 東和薬品株式会社 貝塚市健康づくり推進委員会
 - ヤオキン商事株式会社 (2019年3月1日～5月31日)
- 物品のご寄付
 - 野田亜人 株式会社資生堂
 - がんフォト＊がんストーリー 代表 木口マリア
 - 塚本真理子 金原出版株式会社 (2018年6月1日～2019年5月31日)

法務・税務相談会開催中(無料・要予約)

中央病院では、がん患者さんご家族のために、法律と税に関する相談会を毎月開催しています。経験豊かな専門家が、問題をお聞きして助言を行いますので、お気軽にご利用ください。

[詳しくはこちら](#)

■ご寄付について

がん研究センター 寄付

検索



■詳しくは寄付担当まで

中央病院 03-3547-5201(内線2359・2240)
E-mail: nckifu@ncc.go.jp
東病院 04-7133-1111(内線91460・2343)
E-mail: kifu@east.ncc.go.jp

こちら薬剤部

薬を上手に使って自分らしい生活を「膵がん・胆道がん教室」での薬剤師の役割

参加してよかった、という患者さんの声が届きます！
中央病院薬剤部・西淵由貴子

中 中央病院 8 階の患者サポートセンターでは、毎月第 3 水曜日に「膵がん・胆道がん教室」を開いています。医師、看護師、薬剤師、管理栄養士、医療ソーシャルワーカー、臨床心理士など多職種スタッフが、患者さんの治療・生活・心のケアなどについて説明や助言を行います。診断されて間もない患者さん向けの「入門編」教室と、治療を始めて6か月以上経つ方が対象の「応用編」教室を交互に開催、ご家族も参加されています。私たち薬剤師は、主に入門編を担当し、抗がん剤の副作用対策と、痛みの治療に用いる医療用麻薬のお話をしています。

抗 がん剤の副作用で多いのは、吐き気・嘔吐や便秘・下痢といった消化器症状です。それを予防・改善するための薬を紹介し、使い方を説明します。症状の出現時期や原因はさまざま、個別対応が必要な場合もあるため、入院や外来で治療中の患

者さんには積極的に足を運び、症状を聞き取り適切な薬と一緒に考えるようにしています。

痛 み止めの医療用麻薬は「中毒になる」などと誤解して、使用をためらう患者さんが多いのですが、痛みのレベルに応じた量を用いれば、安全な薬です。主な副作用は便秘・吐き気・眠気ですが、症状が続く場合には、抗がん剤の場合と同様に薬で対応することがあります。痛みがあると日常生活にも支障を来すため、我慢は禁物です。医療用麻薬を上手に使って痛みをコントロールし、趣味や旅行などやりたいことをあきらめず、自分らしい生活を送ってほしいと思います。

応 用編教室の後には、患者さん・ご家族同士が交流するサロンを開いています。少人数のグループごとに、今、受けている治療のことや、困っていることなどを自由に話し合い、知識・経験を共有する貴重なひとときになっています。私たちスタッフも



「膵がん・胆道がん教室」では、薬剤師が抗がん剤の副作用対策や、痛みの治療について説明する(要予約)。



抗がん剤治療開始前の説明に用いるパンフレット。治療のスケジュールや副作用対策などがわかりやすく解説されている。

そこに加わり、会が円滑に進むようサポートしています。



<https://www.ncc.go.jp>

<https://www.facebook.com/nccgojp/>



中央病院 (築地キャンパス)

〒104-0045
東京都中央区築地5-1-1
Tel:03-3542-2511(代)



東病院 (柏キャンパス)

〒277-8577
千葉県柏市柏の葉6-5-1
Tel:04-7133-1111(代)



国立がん研究センター広報誌「日々歩」に関するご意見・ご感想は「広報企画室 日々歩」係までメールまたはFax、手紙にてお寄せください。

✉ ncc-admin@ncc.go.jp

FAX 03-3542-2545

〒104-0045 東京都中央区築地5-1-1 国立がん研究センター「広報企画室 日々歩」係

[企画制作]国立がん研究センター企画戦略局広報企画室 [編集協力]株式会社 毎日企画サービス

発行:2019年7月